

「際限なく防衛費を増やすのか、それとも私たちの暮らしや地方の活性化におカネを使うのか」
～吉川はじめ衆議院議員に聞く～

Q. 現在のところ政局は流動的だと思えますが、総選挙ではどのような事が争点になってくるとお考えですか？

(吉川) 今から約2年前、自民党総裁選で岸田総理が掲げた公約の柱は、所得倍増でした。さて、皆さんの賃金や所得は2倍に増えましたか？ 倍増どころではなく、終わりが見えない物価高で実質賃金は、ここ17ヵ月連続で下がっています。

この2年間、総理は耳あたりのいいスローガンを並べてきましたが、私たちの暮らしに明るい光を灯すような政策は何一つ、満足に実現させていません。

一方、防衛費の倍増、そのための増税には躍起になっています。暮らしに背を向け平和を脅かすような道を進む——こんな岸田内閣の政治に審判を下し、政治の在り方を大きく変えることが争点です。

Q. 吉川さんが市民の方々に特に訴えていきたいことを教えてください。

(吉川) 予想を大幅に上回る速さで進む少子化と人口減少。とりわけ地方の疲弊は深刻です。

大分2区でも、私が最初に立候補した2012年12月と現在では、有権者数が4万人も減少しています。

この事実を見ただけでも、誰もがどこに住んでいても、安心して暮らせるような雇用と所得、子育て・社会保障の環境整備が不可欠なことは明白です。果たして、総理はその実現に力を注いできたと言えるでしょうか。

岸田総理が固執する防衛費の倍増には、毎年、4～5兆円の予算を新たに必要とします。これだけの額があれば、国公立大学の授業料無償化(約1.8兆円)、児童手当の高校までの延長と所得制限廃止(約1兆円)、給食無償化(約4400億円)を実施してもおつりがきます。

年金受給者への月1万円追加支給(約4.8兆円)、保健医療の自己負担ゼロ(約5.2兆円)にすら、もう少しで手が届きます。

際限なく防衛費を増やすのか、私たちの暮らしや地方の活性化におカネを使うのか、声を大にして訴えます。



仲間とともに挨拶行動

Q. 大分2区選挙区は、3人目の出馬表明もあり混沌とした状況になっていますが、どのように関わっていきますか？

(吉川) 次期総選挙はこれまでと異なり、三つ巴の争いとなる様相です。立候補を予定している新人の方は、政治に臨む自らの方向性について、インタビューで「自民党に近い」と述べたと報道されています。私たちの暮らし、そして平和に背を向けてきた自民党政治に追随、継承するお立場だと推察します。

どなたが新たに立候補するにしても、自民党政治と決別し、大分から政治の流れを変えろという、私の姿勢には全く変わりなく闘いぬく決意です。皆さんと一層、力強く手を携えて、選挙区での議席獲得をめざします。

各地の街宣活動を紹介《その2 別府市支部》

毎月第3金曜日の夕刻、別府駅前

別府市支部では、別府地区平和運動センターと共に結成している戦争をさせない別府地区委員会で、毎月第3金曜日の夕刻に別府駅前で行っている街宣。

「安保関連法の動きをきっかけにして取り組んできた毎月第3金曜日の夕刻の別府駅前で行っている街宣は、始めて7年になります。毎回、党員や組合員、労組OBGの方々などが自主的に集まってくれます。

街宣が終わったら毎回、懇親会をしています。飲み会の待ち合わせみたいな活動ですが、みんな楽しみにして参加してくれています。」

【報告者 三重忠昭・別府市議】

農家の方のお話を
お聞きした後は
作業のお手伝い



お馴染みとなった
軽トラ街宣

